

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報		指定管理者名及び団体概要				
施設名又はグループ名		(指定管理者名) 東京臨海副都心グループ (団体の概要)				
潮風公園・台場公園						
指定期間		(株)東京臨海ホールディングスが統括し、東京港埠頭(株)が実績と専門のノウハウを生かした維持管理を行い、(株)東京テレポートセンターが近隣ビルと駐車場の管理を行う。				
H 28.4.1～ R 8.3.31 (10年間)						
2 施設名		3 収支(単位:千円)				
東京都立潮風公園 東京都立台場公園		項目	令和7年度 金額	令和6年度 金額	令和5年度 金額	公園別支出額 《潮風公園》88,632千円 《台場公園》10,005千円
		収入 計	99,516	97,450	95,278	
		指定管理料	99,516	97,450	95,278	
		内 利用料金	0	0	0	
		その他収入	0	0	0	
		支出 計	98,637	93,596	95,703	
		収支差	879	3,854	△425	
4 管理運営の概要						
特記すべき事項						
<p>◆安心・安全を創出する適正な維持管理</p> <p>・経年劣化により老朽化していた潮風公園バーベキュー広場前ボードデッキの再整備や潮風公園及び台場公園の園路補修工事を緊急対応経費や増額予算により執行することで、適正な維持管理を行うことで安心・安全な公園環境を創出した。</p> <p>・南エリアの護岸工事によるフェンス設置に伴う、潮風公園南カスケード内に枯れ葉が堆積することによるグレーチングの詰まり解消や、樹木診断、直営による樹木点検の実施、枯れ枝の剪定等を行うことで大きな事故は発生せず、公園利用者の安全を確保した。</p> <p>◆新型コロナ「5類」移行後のイベントの充実</p> <p>・自主事業の開催(計12件53,677名参加)</p> <p>新型コロナ「5類」移行後、制限なく集客が可能となり、新規イベントの開催をはじめ、従来より実施している体験教室等、充実した自主事業を展開した。これにより、公園の魅力発信や賑わい創出に寄与した。</p> <p>特に新規実施の「臨海副都心回遊スタンプラリー」では臨海副都心エリアへのガンダムファンや外国人観光客を含む来園者の誘致と、それによるエリアの活性化を目的に、お台場海浜公園や潮風公園を含む臨海地域で重ね捺しスタンプラリーを実施し、多くの方が潮風公園に足を運ぶきっかけとなった。</p> <p>・スポーツ・音楽イベント開催時における主催者との連絡調整・指導及び新規企画の立案・実施</p> <p>スポーツや音楽等のイベント開催前には、「レギュレーションブック」を使用して、イベント利用の取扱いについて東京都と共有し、東京都と連携してイベント主催者への利用指導を徹底した。これにより、イベントへの近隣住民や公園利用者からの苦情等は発生しなかった。</p> <p>また、公園の更なる魅力向上と利用促進を図るため、新たに将来を担う若者をフォーカスして、学生を主体とした音楽イベントを企画・実施した。これにより、地域協働や連携を行うことができ、臨海副都心エリアの活性化に寄与した。</p> <p>◆来園者増に向けての取組み</p> <p>・公園ホームページ、SNSによる開花情報、イベント情報の発信</p> <p>公園HPやSNSによる季節の草花の開花情報や公園で実施するイベント情報をタイムリーに発信することで、来園者増に努めた。</p> <p>・QRトランスレーター導入</p> <p>台場公園の歴史を紹介するため、QRトランスレーターを導入し、公園の史跡や歴史を多言語の音声でご案内できる環境を整えた。</p> <p>・AR技術の活用</p> <p>AR技術を活用した史跡紹介を潮風公園・台場公園で開催した。7箇所のポイントでQRコード読み込むことでAR技術によりスマートフォン上で施設・史跡解説を閲覧できる。これにより現地の施設・史跡を楽しみながら、施設・史跡の理解を深めていただくことで、公園の新たな利用方法を創出することができた。</p> <p>◆オリンピックレガシーによる公園の利活用</p> <p>・オリンピック競技としてビーチバレーボールが潮風公園で開催された。オリンピックレガシーとして公園の利活用を促進するため、潮風公園内のビーチバレー競技会場跡地を巡る、「オリンピックレガシーガイドツアー」を実施し、オリンピックレガシーの情報発信を行うとともに、公園資源として継続的に活用、管理を行った。</p>						
5 管理状況						
①維持管理						
<p>・当初計画に基づき、施設点検や修繕を着実かつ適切に行った。実施にあたっては当社独自で作成の不具合処理調書を活用し、速やかに補修作業を行い施設の適正な維持管理に努めた。また、電気設備・給排水設備の点検作業を実施し、不具合のあった汚水ポンプや漏水については直ちに発注し、修繕を行った。照明の不点灯や配管の詰まり等の不具合が発生しないように直営での管球交換や委託での照明頭交換、側溝清掃を行い、関係施設の予防保全に努めた。その結果、利用者へ影響を及ぼす公園施設での不具合は発生しなかった。</p>						
②利用者への対応						
<p>・潮風公園バーベキュー広場前ボードデッキの再整備、園路補修工事、枯れ葉の堆積によるグレーチング詰まり対応等実施した。</p> <p>・新型コロナ「5類」移行後、制限なく集客が可能となったことから充実した自主事業(計12件53,677名)を実施し、公園の利用活性を図ることができた。</p> <p>・HPやSNSによる季節の草花の開花情報や公園で実施するイベント情報をタイムリーに発信することで、来園者増に努めた。</p> <p>・「臨海副都心回遊スタンプラリー」ではお台場海浜公園や潮風公園を含む臨海地域で重ね捺しスタンプラリーを実施し、臨海副都心エリアへのガンダムファンや外国人観光客を含む来園者の誘致と、それによる潮風公園の活性化を図ることができた。</p> <p>・台場公園の歴史を紹介するため、QRトランスレーターを導入し、史跡や歴史を多言語の音声でご案内できる環境を整えた。</p> <p>・AR技術を活用した「台場公園史跡めぐり」を開催し、現地で史跡を楽しみながら、史跡の理解を深めていただくことができた。</p> <p>・「オリンピックレガシーガイドツアー」を実施し、オリンピックレガシーの情報発信を行うとともに、公園資源として継続的に活用、管理を行った。</p>						
6 利用者アンケート結果						
実施方法：公園内で調査票を配布・回収						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	施設ごとの分析・評価
潮風公園	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	公園の良い点として、「芝生広場等広々とした公園がある」や「季節の草花や樹木が楽しめる」と評価されているのは、臨海副都心地区の中で自然を快適な空間として管理できていることが評価されたと考えられる。改善点としては、「レストラン・売店が少ない」、「子供用遊具の充実」等が挙げられており、これらの点について、関係部署と協力して改善策を検討していくことが重要と考える。
台場公園	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6	総合満足度が5点満点中4.7点と、例年より全体的に高評価となった。要因としては、日常の清掃、維持管理作業、巡回スタッフによる注意喚起が快適な公園環境を提供したと考えられる。今後の対応としては、史跡としての利用方法や注意事項の注意喚起、ホームページやSNSでの情報発信等が考えられる。
グループ平均						
7 入園者数の状況(単位:人)						
施設名	当該年度	分析				
潮風公園	371,704	今年度は年間を通じて遠足等の団体での芝生広場利用が多く来園者が増加している。また音楽・スポーツイベントによる利用者や、ペットイベント後のペット連れの来園者も増加している。				
台場公園	76,098	年間を通じて開園となり、外出自粛の規制も緩和されてきたことから、外国人観光客等の来園者が前年度から継続して増加している。				
合計	447,802					

東京臨海副都心グループ 都立潮風公園

様式1-②

本年度、力を入れて取り組んだ4つの取り組み

安心・安全を創出する適正な維持管理

新型コロナ「5類」移行後のイベント充実

来園者増に向けての取組

オリンピックレガシーによる公園の利活用

1 安心・安全を創出する適正な維持管理

(1) バーベキュー広場前ボードデッキ再整備

増額予算を活用し、前年度より老朽化し、腐朽やささくれが発生しているボードデッキを継続的に再整備し、バーベキュー広場をご利用するお客様の快適性や安全性・景観の向上に努めた。



ボードデッキ再整備

(2) 園路補修の実施

緊急対応経費を活用し、潮風公園の人気スポットである南中央口と噴水広場を結ぶワシントンヤシ並木のある「水と緑のプロムナード」の園路舗装を前年度より継続的に補修することで、潮風公園内で夏場は特に利用者の多い噴水広場までの動線の機能性や安全性を確保することでお客様に快適性の高い環境を提供した。



水と緑のプロムナード園路補修及び利用状況

(3) 直営による迅速な対応

南エリアの護岸工事によるフェンス設置により、潮風公園南カスケード内に枯れ葉が堆積し、グレーティングの詰まりを引き起こし、水が流出した。頻発する詰まりに対応するため、毎日の直営による巡回で確実な除去を行い、大雨・洪水警報及び強風警報が発出された際には運転開始前と運転中、運転停止前と数を増やして確認する数を増やし、詰まり防止措置を行うことで公園施設の適切な維持管理に努めた。



落ち葉堆積による流出



落ち葉清掃後

(4) 緊急樹木点検及び剪定・伐採対応

近年多発しているナラ枯れや樹木の老朽化による倒木被害に伴い、園内の樹木の点検を行い、東京都への点検表の報告、危険木が処置されるまでの案内表示、迅速な剪定・伐採処置を実施した。

剪定・伐採処置を行う際には迅速な対応を順守し、台風シーズン前の伐採、桜開花前の剪定を行うことにより、利用者の安全性の向上に寄与した。

また、倒木の疑いがあり判断の難しい樹木に関しては、樹木医による樹木診断を行い、適切な処置を実施することで利用者の安全確保と、公園利用への支障回避を図ることができた。



伐採告知



園内注意喚起



樹木点検の様子



サクラの剪定処置

3 新型コロナ「5類」移行後のイベント充実

(1) 自主事業の開催

新型コロナ「5類」移行後、制限なく集客が可能となり、従来より実施している体験教室等、充実した自主事業を展開した。これにより、公園の魅力発信や賑わい創出に寄与した。

特に新規実施の「臨海副都心回遊スタンプラリー」では臨海副都心エリアへのガンダムファンや外国人観光客を含む来園者の誘致と、それによるエリアの活性化を目的に、お台場海浜公園や潮風公園を含む臨海地域で重ね捺しスタンプラリーを実施し、多くの方が潮風公園に足を運ぶきっかけとなった。

今年度実施した自主事業は下記の通り
(計9件、10,588名参加)

- ・エクサパーク(潮風フィットネス)(200名)
- ・潮風・お台場ウォーキング教室(1,000名)
- ・門松作り教室(18組47名)
- ・凧作り凧揚げ体験教室(49名)
- ・パークヨガ(148名)
- ・防災キャンプ体験教室(20名)
- ・アカペラコンサート(500名)
- ・環境学習事業(27名)
- ・臨海副都心回遊スタンプラリー(8,597名)



エクサパーク



門松作り教室



パークヨガ



防災キャンプ教室



潮風・お台場
ウォーキング教室



凧作り凧揚げ体験教室

(2) スポーツ・音楽イベント開催時における主催者との連絡調整・指導の実施

・新型コロナが収束し、イベント事業者によるスポーツや音楽イベントが複数実施されたが、イベント主催者への利用指導を徹底したことにより、イベントへの近隣住民や公園利用者からの大きな苦情等は発生しなかった。

また、イベントによる施設・設備の破損、欠損等については、事前と事後の施設確認を徹底することで、イベント開催による不具合発生の早期発見に努めた。なお、イベント中の応急措置への協力と原状復旧への指導を徹底することで、公園施設や利用環境を適正に維持することができ、良質な環境のもとイベントをお楽しみ頂いた。

(3) 東京都事業への協力

潮風公園内護岸工事や防潮堤地質調査等、多様な公園利用に対して利用調整を行うなど、円滑にイベントや工事・調査が行われるよう努めた。

4 来園者増に向けての取組み

(1) 公園HP、SNSによる開花情報、イベント情報の発信

・公園HPやX、Instagramによる季節の草花の開花情報や公園で実施する各種イベント情報をタイムリーに発信することで、来園者増に努めた。令和7年度潮風公園Xインプレッション数は累計22,023カウント(3/31時点)であった。
※インプレッション数とは「投稿や広告が表示された回数」のことを指し、情報発信効果の指標となる。

令和6年度の来園者300,096人(3月末)に対し、令和7年度は来園者が371,704人(3月末)となり、71,608人(23.8%)増となった。

5 オリンピックレガシーによる公園の利活用

・オリンピック競技としてビーチバレーボールが潮風公園で開催された。オリンピックレガシーとして公園の利活用を促進するため、臨海地区の他スポーツ施設と潮風公園内のビーチバレー競技会場跡地を巡る、「オリンピックレガシーガイドツアー」を実施し、オリンピックレガシーの情報発信を行うとともに、公園資源として継続的に活用に取り組んだ。



音楽イベント



臨海副都心回遊スタンプラリー



ジャパンわんこフェスタ



ミャンマー春のお正月祭り



お台場潮風あおぞらマラソン



公園南側護岸工事



X・Instagramによる情報発信



レガシーガイドツアーの様子

東京臨海副都心グループ 都立台場公園

歴史と文化
に配慮した
公園管理

都民協働・
自主事業に
よる公園の
利活用

来園者増に
向けての
取組

本年度、力を入れて取り組んだ3つの取り組み

1 歴史と文化に配慮した公園管理

(1) 景観に配慮した適正な維持管理

・海上公園との一体管理のメリットを活かし、お台場海浜公園レクリエーション水域の巡回時に合わせて、海上から台場公園の石垣の状態を確認するなど、史跡の保全、景観への配慮に努めた。



海上からの石垣



石垣実生木処理



(2) 緊急樹木点検後の迅速な剪定・伐採対応

・直営による樹木点検、樹木医による樹木診断等を実施し、処置が必要と判断された園内樹木(サクラ等)の剪定、枯れ枝除去、伐採、安全措置等の作業を迅速に実施した。このため利用者への被害等は発生せず、園内の安全性及び景観を確保した。



危険木伐採処置

2 都民協働・自主事業による公園の利活用

(1) ゴミ拾いイベントの実施

(6・9・11月実施 延べ1,543名)

・「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」を実施し、隣接するお台場海浜公園とともに清掃活動を実施した。港区や近隣住民等の地域との連携強化や、都民協働による公園の利活用に貢献した。



ゴミ拾いイベント



環境美化ボランティア活動

(2) 環境美化ボランティア活動(53団体1,169名)

・企業、団体の美化活動、CSR活動の場として公園を提供。美化活動に使用する清掃道具の貸出しやゴミの回収等活動をサポートすることで、参加者だけでなく公園利用者全体へ園内美化の啓発を進めることができた。

3 来園者増に向けての取組み

(1) AR技術によるDX活用

・大砲のある風景をスマホ上で再現できるようにするため、砲台跡付近にAR読み込み用QRコード及び手順書を記載した看板を継続して設置している。

公園利用者がQRコードを読み取り、砲台を復元している様子が見られ、公園の新たな利用方法を創出することができた。



AR技術による砲台の復元



(2) 雪吊りの設置

・台場公園の入口にある仕立ての良い松3本に「雪吊り」を実施し、日本の伝統文化や美しい景観を創出した。

また、雪吊り説明看板は日本語・英語で表記し、更に中国語の説明文をQRコードで読取可能とすることで、多言語化に対応した。



雪吊りの設置



QRコードを活用した
雪吊り説明看板